

## 審査意見への対応を記載した書類（9月）

（目次）こども教育学部こども教育学科

### 1. 【設置の趣旨・目的等】【第一次専門審査意見1への回答について①】

「審査意見への対応を記載した書類（6月）（本文）」P.4において、「教育上様々な背景をもつ人々への対応能力としてインクルーシブ教育にも挑戦し、・・・特別支援学校教諭一種免許状に関する科目群（主たる領域）を修得する（CP3）」と説明していることから、DP3に掲げる「共生社会において身に付ける教養」の修得には、CP3が関連しているように見受けられる。しかしながら、CP3として掲げている内容は「3年次には、1年次、2年次の学びに基づいた教育実習を行い、リフレクションを行う」であることから、CP3がDP3に整合して適切に設定されているとは判断することができない。このため、DP3を達成するためのカリキュラム・ポリシーとしてCP3が設定されているのであれば、そのことが明確となるようCP3を適切に改めること。なお、DP3に関連したカリキュラム・ポリシーがCP3でない場合には、改めてディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの対応関係について明確に説明すること。 (是正事項)・・・ 3

### 2. 【第一次専門審査意見1への回答について②】

本学の養成する人材像について、「審査意見への対応を記載した書類（6月）（本文）」において、「より高度化・複雑化する時代への適応力を有し、それを他者と分かち合うことのできる人材の育成を目指す」（P.3）ことや、「他者とともに在り、生き、よりよい社会のため柔軟に粘り強く行動し、こどもとの関わりを通して自他ともに成長できる教育人材を育成する」（P.4）といった説明があり、これらが本学部における養成する人材像であるように見受けられるが、学生等が適切に理解できるよう明示すること。 (改善事項)・・・ 8

### 3. 【教育課程等】【第一次専門審査意見2(1)への回答について】

「審査意見への対応を記載した書類（6月）（本文）」P.4において、「初年次を中心に『学校運営と制度』や『保育原理』、『日本国憲法』や『人権教育概論』といったこれから教育職員を志す者として知っておくべき法体系や関連知識を教職における基礎科目や教養科目を履修することで修得する。また、本学の特色の一つである課程外教育、具体的にはレクリエーションスポーツ大会、学園祭や種蒔き祭など学校行事への参加とこれに伴うクラス活動や学友会活動における役割分担を経験することで他者との共生や社会的ルールを実地で身に付ける（CP1）」と説明しているが、カリキュラム・ポリシーは「教育課程の編成及び実施に関する方針」であり、カリキュラム・ポリシーに課程外教育が含まれていることから、カリキュラム・ポリシーの妥当性、及び教育課程がカリキュラム・ポリシーに整合し適切に編成されているのか依然として疑義がある。このため、CP1を見直すとともに、CP1に基づいて配置する授業科目を明示することによって、CP1に対応するディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力の修得が可能であることについて、改めて明確かつ具体的に説明すること。 (是正事項)・・・ 8

### 4. 【第一次専門審査意見3への回答について】

「審査意見への対応を記載した書類（6月）（資料）」P.3～9において示された7つの履修モデルには、本学の採用するCAP制の制限を緩和する必要があるモデル（「履修モデル⑦」等）が含まれており、必ずしも希望する

学生全員が当該履修モデルのとおり履修できるとは限らない。このことについて、入学直後のオリエンテーション等における説明だけでなく、「GPA を基準にしながら日常の履修状況や本人との面談結果を踏まえて総合的に判断する」ことを説明しているが、示された履修モデルにおいては、こうした要件が記載されていないことから、学生が希望すれば誰でも履修が可能であると誤認する恐れがあるため、該当する履修モデルにおいて適切に明示すること。  
(改善事項) . . . . . 10

**5. 【教育研究実施組織】【第一次専門審査意見 5 への回答について】**

教員資格審査において、「不可」や「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を基幹教員以外の教員で補充する場合には、主要授業科目は原則として基幹教員が担当することとなっていることを踏まえ、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。  
(是正事項) . . . . . 16

1. 【設置の趣旨・目的等】

「審査意見への対応を記載した書類（6月）（本文）」P.4において、「教育上様々な背景をもつ人々への対応能力としてインクルーシブ教育にも挑戦し、・・・特別支援学校教諭一種免許状に関する科目群（主たる領域）を修得する（CP3）」と説明していることから、DP3に掲げる「共生社会において身に付ける教養」の修得には、CP3が関連しているように見受けられる。しかしながら、CP3として掲げている内容は「3年次には、1年次、2年次の学びに基づいた教育実習を行い、リフレクションを行う」であることから、CP3がDP3に整合して適切に設定されているとは判断することができない。このため、DP3を達成するためのカリキュラム・ポリシーとしてCP3が設定されているのであれば、そのことが明確となるようCP3を適切に改めること。なお、DP3に関連したカリキュラム・ポリシーがCP3でない場合には、改めてディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの対応関係について明確に説明すること。

(対応)

御指摘の通り本学部案ではCPとDPは関連付けられているため、それぞれの対応関係が明らかになるよう以下の通り変更を行った。本文においてはCP3を中心にDPとの整合性が取れるよう文言を修正、その際、課程編成者の視点となるよう留意した。本学部課程が各CPに対応して編成されていることを示すために対応する科目群を明示した。最後に、目標とする人材像、三つのポリシー、開講科目群の対応関係を図示した。課程外教育に関しては、CPとは別枠であることを示すために以下のように書き分けた（新旧対照表2参照）。

<ポリシー変更案>

・ディプロマ・ポリシー

建学の精神「勇気・親和・愛・知性」を基に、本学部の課程を修め、所定の単位の修得と必修等の条件を充たすとともに、以下の知識・能力・資質等を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与する。

1. こどもの生涯にわたる成長および発達、それに関わる保育と教育について原理的な知識と理解を修得している。<こどもや教育に対する基礎的理解>
  2. こどもの教育に関する新しい展望と課題について様々な角度から学修し、教育学・保育学分野の専門的知識と技能を修得している。<教育に関する専門的理解>
  3. 誰もが積極的に社会参加・貢献できる社会構築に向けた課題を理解し、多くの人々と協力してこれらの課題に適切に対処できる技能を修得している。<共生社会において身に付けるべき資質・能力>
  4. 生涯にわたって自律的に学び続け、教育者として自ら成長していくためにテーマを設定し、課題を解決する探究的な学びを修得している。<主題を立て自ら探究する学び>
1. こどもの生涯にわたる成長および発達、それに関わる保育と教育について原理的な知識と理解を修得している。<こどもや教育に対する基礎的理解>

・カリキュラム・ポリシー

建学の精神「勇気・親和・愛・知性」を基に、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力・技能等を身に付けさせるために、以下のような教育内容と教育方法に基づき、教育に対する基礎、教育に関する専門、共生社会における教養および自ら探究する学びを体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を実施する。

1. こどもや教育について考えるために不可欠な知識や原則について学ぶ基礎的科目を配する。
2. 教育や保育に関する専門的な理論と実践について学ぶ専門的科目を配する。
3. 社会規範や人間の行動原理・多様性について学ぶ科目を配すると同時に、学修内容を応用する実習科目を配する。
4. 本学部（学科）での学びの集大成として、自らテーマを設定し卒業論文に取組み発表するための科目群を配する。

(新旧対照表 1) 設置の趣旨を記載した書類 (8~9 頁)

新	旧
<p>・ディプロマ・ポリシー</p> <p><u>建学の精神「勇気・親和・愛・知性」を基に、</u>本学部の課程を修め、所定の単位の修得と必修等の条件を満たすとともに、以下の知識・能力・資質等を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの生涯にわたる成長および発達、それに関わる保育と教育について原理的な知識と理解を修得している。&lt;こどもや教育に対する基礎的理解&gt;</li> <li>2. こどもの教育に関する新しい展望と課題について様々な角度から学修し、教育学・保育学分野の専門的知識と技能を修得している。&lt;教育に関する専門的理解&gt;</li> <li>3. <u>誰もが積極的に社会参加・貢献できる社会構築に向けた課題を理解し、多くの人々と協力してこれらの課題に適切に対処できる技能を修得している。</u>&lt;共生社会において身に付けるべき資質・能力&gt;</li> <li>4. <u>生涯にわたって自律的に学び続け、教育者として自ら成長していくためにテーマを設定し、課題を解決する探究的な学びを修得している。</u>&lt;主題を立て自ら探究する学び&gt;</li> </ol>	<p>・ディプロマ・ポリシー</p> <p>本学部（学科）では、本学部の課程を修め、所定の単位の修得と必修等の条件を満たすとともに、以下の知識・能力・資質等を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの生涯にわたる成長および発達、それに関わる保育と教育について原理的な知識と理解を修得している。&lt;教育に対する基礎的理解&gt;</li> <li>2. こどもの教育に関する新しい展望と課題について様々な角度から学修し、教育学・保育学分野の専門的知識と技能を修得している。&lt;教育に関する専門的理解&gt;</li> <li>3. <u>誰もが積極的に社会参加・貢献できる社会構築に向けた課題を理解し、それらに適切に対処できる技能を修得している。</u>&lt;共生社会において身に付ける教養&gt;</li> <li>4. <u>生涯にわたって自律的に学び続け、教育者として自ら成長していくためにテーマを設定し、課題を解決する探究的な学びを修得している。</u>&lt;主題を立て自ら探究する学び&gt;</li> </ol>

<p>・カリキュラム・ポリシー</p> <p><u>建学の精神「勇気・親和・愛・知性」を基に、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力・技能等を身に付けさせるために、以下のような教育内容と教育方法に基づき、教育に対する基礎、教育に関する専門、共生社会における教養および自ら探究する学びを体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を実施する。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>こどもや教育について考えるために不可欠な知識や原則について学ぶ基礎的科目を配する。</u></li> <li>2. <u>教育や保育に関する専門的な理論と実践について学ぶ専門的科目を配する。</u></li> <li>3. <u>社会規範や人間の行動原理・多様性について学ぶ科目を配すると同時に、学修内容を応用する実習科目を配する。</u></li> <li>4. <u>本学部（学科）での学びの集大成として、自らテーマを設定し卒業論文に取組み発表するための科目群を配する。</u></li> </ol>	<p>・カリキュラム・ポリシー</p> <p>本学部（学科）では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力・技能等を身に付けさせるために、以下のような教育内容と教育方法に基づき、教育に対する基礎、教育に関する専門、共生社会における教養および自ら探究する学びを体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1年次には、主としてこどもの教育に必要なルールや法則について学ぶ基礎的科目を履修する。</li> <li>2. 2年次には、主として教育や保育に関する専門的な理論と実践について学ぶ専門的科目を履修する。</li> <li>3. 3年次には、1年次、2年次の学びに基づいた教育実習を行い、リフレクションを行う。</li> <li>4. 4年次には、本学部（学科）での学びの集大成として、自らテーマを設定し卒業論文に取組み発表する。</li> </ol>
---	---

<目標とする人材像と三ポリシー、配当科目の相関図> (新規追加：本文 10 頁)

<目標とする人材像>

- I. 絶え間なく変化し続ける時代を生き抜くために必要とされる力を身に付け、こうした力がどんなものであるか周囲の人々と考え、ともに身に付けようとする姿勢をもっている。
- II. こどもの発達という事象を通してこれからの地域や人間に求められる能力を不断に見つめ直し、こどもや周囲の人々と協力しながらよりよい社会や環境を創り出すため積極的に行動することができる。

■ディプロマ・ポリシー (DP)：卒業認定・学位授与の方針

建学の精神「**勇氣・親和・愛・知性**」を基に、本学部の課程を修め、所定の単位の修得と必修等の条件を満たすとともに、以下の知識・能力・資質等を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与する。

<こどもや教育に対する基礎的理解>

1. こどもの生涯にわたる成長および発達、それに関わる保育と教育について原理的な知識と理解を修得している。

<教育に関する専門的理解>

2. こどもの教育に関する新しい展望と課題について様々な角度から学修し、教育学・保育学分野の専門的知識と技能を修得している。

<共生社会において

- 身に付けるべき**資質・能力**
3. 誰もが積極的に社会参加・貢献できる社会構築に向けた課題を理解し、**多くの人々と協力してこれらの課題に適切に対処できる技能**を修得している。

<主題を立て自ら探究する学び>

4. 生涯にわたって自律的に学び続け、教育者として自ら成長していくためにテーマを設定し、課題を解決する**探究的な学び**を修得している。

■カリキュラム・ポリシー (CP)：教育課程編成の方針

建学の精神「**勇氣・親和・愛・知性**」を基に、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力・技能等を身に付けさせるために、以下のような教育内容と教育方法に基づき、教育に対する基礎、教育に関する専門、共生社会における教養および自ら探究する学びを体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を実施する。

1. **こどもや教育について考えるのに不可欠な知識や原則**について学ぶ基礎的科目を配する。

<対応科目群>

教育原理、教職概論、学校運営と制度、障がいと教育、教育心理学、初等科課程編成論、ICTを活用した授業構築、肢体不自由児教育、こどもの理解と教育相談、こども家庭支援の心理学、保幼小連携論など

2. 教育や保育に関する専門的な理論と実践について学ぶ専門的科目を配する。

<対応科目群>

5領域・各教科概論・指導法、ポディパーカッション教育Ⅰ・Ⅱ、地域と学校、現代教員論、こどもの食と栄養、乳児保育Ⅰ・Ⅱ、障害児保育Ⅰ・Ⅱ、こどもの保健、こども家庭支援論など

3. **社会規範や人間の行動原理・多様性について学ぶ科目を配すると同時に、学修内容を応用する実習科目を配する。**

<対応科目群>

日本国憲法、人権教育概論、Society5.0の世界、消費者行動論、農園演習、国際理解、学級経営論Ⅰ・Ⅱ、生活の中のジェンダー、幼稚園・小学校・特別支援学校・保育所・施設等における実習など

4. 本学部(学科)での学びの集大成として、自らテーマを設定し卒業論文に取り組み発表するための**科目群を配する。**

<対応科目群>

キャリア研究Ⅰ・Ⅱ、プレゼミナール、ゼミナールⅠ・Ⅱ、卒業研究Ⅰ・Ⅱ

■アドミッション・ポリシー (AP)：入学者受け入れの方針

本学部(学科)では、小学校教諭、特別支援学校教諭、幼稚園教諭、保育士等、多様な教育分野における専門的知識と技術を持った教育者を養成するために、以下に掲げる人材を求める。

1. 建学の精神(勇氣・親和・愛・知性を基盤にした人格教育)に賛同する人。

2. 高等学校までに学習した全ての教科において、基礎学力を身につけている人。

3. 教育者になろうとする強い意志を持ち、積極的に学び、思考力・判断力・表現力を身につけようとする人(主体的意志力・思考力・判断力・表現力)。

4. 豊かな感性・受容力・コミュニケーション能力を養い、地域を取り巻く教育に関心を持ち、こどもの健やかな成長を支援しようとする人(協調性)。

(新旧対照表 2) 設置の趣旨を記載した書類 (7~8 頁)

新	旧
<p>これらの能力を修得する<b>基盤</b>として、まずは、<u>これから教育者・保育者を志すものとして最低限知っておくべきこどもや教育に対する基礎的知識、原理・原則、教育手法などを修得する。この目的を達成するために、「教育原理」、「教職概論」、「学校運営と制度」、「障がいと教育」、「教育心理学」、「初等科課程編成論」、「ICTを活用した授業構築」、「こどもの理解と教育相談」、「こども家庭支援の心理学」、「保幼小連携論」などの科目群を編成している。これらを履修することにより順次、こどもや教育に対する理解を深めていく。(CP1)。</u></p> <p><u>次いで、これらの基盤の上に、2年次以降を中心として五領域や国語・算数・理科・社会など具体的な教科目の概論や指導法を配し、教育者・保育者としての</u></p>	<p>これらの能力を修得するために、初年次を中心に「学校運営と制度」や「保育原理」、「日本国憲法」や「人権教育概論」といったこれから教育職員を志す者として知っておくべき法体系や関連知識を教職における基礎科目や教養科目を履修することで修得する。また、本学の特色の一つである課程外教育、具体的にはレクリエーションスポーツ大会、学園祭や種蒔き祭など学校行事への参加とこれに伴うクラス活動や学友会活動における役割分担を経験することで他者との共生や社会的ルールを実地で身に付ける (CP1)。次いで、2年次を中心に知識面で教育職員が最低限必要とする教育理論や教育技法について、「言葉の指導法」や「算数科教育論」、「社会的養護Ⅰ」いわゆる教科とその指導法に関する科目群を中心に修得する (CP2)。3</p>

具体的な指導力を養う。また、「現代教員論」、「地域と学校」、「ボディパーカッション教育Ⅰ・Ⅱ」、「こどもの食と栄養」、「障害児保育Ⅰ・Ⅱ」など各教科目における発展的な内容を含んだ科目群を配し、教壇に立った際の指導力向上や教育者・保育者として指導力を発揮するために役立つより幅広い視座を提供する（CP2）。

ところで、本学部ではこれからの社会の特徴が多様性にあると考え、また教育者・保育者はこどもや地域の人々と協力して多様性が生み出す様々な課題を解決していく力を養い、伝えていく役割を果たすと考えている。このため、上記のような知識、指導力を養うと同時に、社会の多様性を肌に触れて学び、自分自身で何ができるか、何が足りないかを考えるための科目群を編成する。具体的には、「日本国憲法」、「人権教育概論」、「消費者行動論」、「生活の中のジェンダー」といった規範論をはじめ「Society5.0の世界」、「国際理解」や語学科目などを配し多様な社会の実際を知ると同時に、「農園実習」や「学級経営論Ⅰ・Ⅱ」、幼稚園・小学校・特別支援学校・保育所・施設等における実習科目を配することで他者との協働や共生を具体的に体感し、コミュニケーション能力を養う課程を編成する。（CP3）。

これらの学びと並行しながら、自身が学んだ基礎知識、技能そしてその応用力を自分なりの教育目的と方法論に昇華させ、これらから教育者・保育者として歩み出す自らの指針を見出し、自ら継続的に学ぶ能力を養うことを目的として「プレゼミナールⅠ・Ⅱ」、「ゼミナールⅠ・Ⅱ」といった科目群を配する。これらをはじめこれまでの学修や実習での学びや経験を総合して、自身の教育者・保育者としての基本方針や課題を「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において完成させる（CP4）。

また、本学では学校行事（レクリエーションスポーツ大会、学園祭、種蒔き祭、針供養など）を教職員と学生の全員参加型で実施している。学生はこれら課程外の教育におけるクラス活動や学友会活動などを通じ主体性や他者との協調性、コミュニケーション能力を養っており、教育課程における学修効果を補完する役割を担っている。

年次には、2年間で培った教育に関する基礎的な能力を背景に、「保育実習」や「教育実習」、指導法に関する科目群においては「子育て支援」など演習や実習形式の科目群を履修することで、知識の応用と実践力を涵養する。また、同じくこれまで培ってきた教育に関する基礎的な能力を背景に教育上様々な背景をもつ人々への対応能力としてインクルーシブ教育にも挑戦し、「知的障害児教育」やその指導法といった特別支援学校教諭一種免許状に関する科目群（主たる領域）を修得する（CP3）。4年次においては、これまで学んできた基礎知識、技能そしてその応用力を自分なりの教育目的と方法論に昇華させ、これらからの教育職における自らの指針を見出し、自ら継続的に学ぶ能力を養うことを目的とした「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を修得するほか、より幅広い視点や応用力を養うために「保幼小連携論」、「こどもの表現（総合劇演習）」といった科目群や、より高度な知識と対象への深く慎重な理解を要する「知的障害児の心理・病理・生理」など特別支援教諭一種免許状に関する科目群を修得する（CP4）。

(改善事項) こども教育学部こども教育学科

## 2. 【設置の趣旨・目的等】

本学の養成する人材像について、「審査意見への対応を記載した書類（6月）（本文）」において、「より高度化・複雑化する時代への適応力を有し、それを他者と分かち合うことのできる人材の育成を目指す」（P.3）ことや、「他者とともに在り、生き、よりよい社会のため柔軟に粘り強く行動し、こどもとの関わりを通して自他ともに成長できる教育人材を育成する」（P.4）といった説明があり、これらが本学部における養成する人材像であるように見受けられるが、学生等が適切に理解できるよう明示すること。

(対応)

御指摘の通り、文章が抽象的でわかりにくいいため、以下のように文章を具体化した。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類（6、8頁）

新	旧
<u>絶え間なく変化し続ける時代を生き抜くために必要とされる力を身に付け、こうした力がどんなものであるか周囲の人々と考え、ともに身に付けようとする姿勢をもった人材の育成を目指す。</u> （6頁）	より高度化・複雑化する時代への適応力を有し、それを他者と分かち合うことのできる人材の育成を目指す。
<u>こどもの発達という事象を通してこれからの地域や人間に求められる能力を不断に見つめ直し、こどもや周囲の人々と協力しながらよりよい社会や環境を創り出すため積極的に行動することのできる教育人材を育成する。</u> （8頁）	他者とともに在り、生き、よりよい社会のため柔軟に粘り強く行動し、こどもとの関わりを通して自他ともに成長できる教育人材を育成する

(是正事項) こども教育学部こども教育学科

3. 「審査意見への対応を記載した書類（6月）（本文）」P.4において、「初年次を中心に『学校運営と制度』や『保育原理』、『日本国憲法』や『人権教育概論』といったこれから教育職員を志す者として知っておくべき法体系や関連知識を教職における基礎科目や教養科目を履修することで修得する。また、本学の特色の一つである課程外教育、具体的にはレクリエーションスポーツ大会、学園祭や種蒔き祭など学校行事への参加とこれに伴うクラス活動や学友会活動における役割分担を経験することで他者との共生や社会的ルールを実地で身に付ける（CP1）」と説明しているが、カリキュラム・ポリシーは「教育課程の編成及び実施に関する方針」であり、カリキュラム・ポリシーに課程外教育が含まれていることから、カリキュラム・ポリシーの妥当性、及び教育課程がカリキュラム・ポリシーに整合し適切に編成されているのか依然として疑義がある。このため、CP1を見直すとともに、CP1に基づいて配置する授業科目を明示することによって、CP1に対応するディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力の修得が可能であることについて、改めて明確かつ具体的に説明すること。

(対応)

御指摘の通り本学部案では CP と DP の関連性が明確ではなく、本学対応案では CP1 と DP1 の対応関係が不明瞭であった。このため、まず CP と DP の対応関係の観点から、旧本学案にあった課程外教育に関しては CP そのものの説明とは書き分けを行った（第一次補正でご指摘いただいた「⑫-1）校地の整備計画」において記載済のため）。次いで、CP の見直しと配当科目の明示、科目履修による DP に掲げる能力の修得可能性に関しては、審査意見 1 で述べた本学対応案を以下の通り再掲する。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (7～8 頁)

新	旧
<p>・ディプロマ・ポリシー (再掲) (略)</p> <p>1. こどもの生涯にわたる成長および発達、それに関わる保育と教育について原理的な知識と理解を修得している。&lt;こどもや教育に対する基礎的理解&gt;</p> <p>・カリキュラム・ポリシー (略)</p> <p>1. <u>こどもや教育について考えるために不可欠な知識や原則について学ぶ基礎的科目を配する。</u></p> <p>・本文 (再掲)</p> <p><u>これらの能力を修得する基盤として、まずは、これから教育者・保育者を志すものとして最低限知っておくべきこどもや教育に対する基礎的知識、原理・原則、教育手法などを修得する。この目的を達成するために、「教育原理」、「教職概論」、「学校運営と制度」、「障がいと教育」、「教育心理学」、「初等科課程編成論」、「ICT を活用した授業構築」、「こどもの理解と教育相談」、「こども家庭支援の心理学」、「保幼小連携論」などの科目群を編成している。これらを履修することにより順次、こどもや教育に対する理解を深めていく。</u></p> <p><u>(CP1)。</u></p> <p>(略)</p> <p><u>また、本学では学校行事 (レクリエーションスポーツ大会、学園祭、種蒔き祭、針供養など) を教職員全員参加型で実施している。学生はこれら課程外の教育におけるクラス活動や学友会活動などを通じ主体性や他者との協調性、コミュニケーション能力を養っており、教育課程における学修効果を補完する役割を担っている。</u></p>	<p>・ディプロマ・ポリシー (再掲) (略)</p> <p>1. こどもの生涯にわたる成長および発達、それに関わる保育と教育について原理的な知識と理解を修得している。&lt;教育に対する基礎的理解&gt;</p> <p>・カリキュラム・ポリシー (略)</p> <p>1. 1 年次には、主としてこどもの教育に必要なルールや法則について学ぶ基礎的科目を履修する。</p> <p>・本文 (再掲)</p> <p>これらの能力を修得するために、初年次を中心に「学校運営と制度」や「保育原理」、「日本国憲法」や「人権教育概論」といったこれから教育職員を志す者として知っておくべき法体系や関連知識を教職における基礎科目や教養科目を履修することで修得する。また、本学の特色の一つである課程外教育、具体的にはレクリエーションスポーツ大会、学園祭や種蒔き祭など学校行事への参加とこれに伴うクラス活動や学友会活動における役割分担を経験することで他者との共生や社会的ルールを実地で身に付ける (CP1)。</p>

## <目標とする人材像と三ポリシー、配当科目の相関図> (新規追加：本文 10 頁)

### <目標とする人材像>

- I. 絶え間なく変化し続ける時代を生き抜くために必要とされる力を身に付け、こうした力がどんなものであるか周囲の人々と考え、ともに身に付けようとする姿勢をもっている。
- II. こどもの発達という事象を通してこれからの地域や人間に求められる能力を不断に見つめ直し、こどもや周囲の人々と協力しながらよりよい社会や環境を創り出すため積極的に行動することができる。

### ■ディプロマ・ポリシー (DP)：卒業認定・学位授与の方針

建学の精神「**勇気・親和・愛・知性**」を基に、本学部の課程を修め、所定の単位の修得と必修等の条件を充たすとともに、以下の知識・能力・資質等を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与する。

#### <こどもや教育に対する基礎的理解>

1. こどもの生涯にわたる成長および発達、それに関わる保育と教育について原理的な知識と理解を修得している。

#### <教育に関する専門的理解>

2. こどもの教育に関する新しい展望と課題について様々な角度から学修し、教育学・保育学分野の専門的知識と技能を修得している。

#### <共生社会において

- 身に付けるべき**資質・能力**
3. 誰もが積極的に社会参加・貢献できる社会構築に向けた課題を理解し、**多くの人々と協力してこれらの課題に適切に対処できる技能**を修得している。

#### <主題を立て自ら探究する学び>

4. 生涯にわたって自律的に学び続け、教育者として自ら成長していくためにテーマを設定し、課題を解決する探究的な学びを修得している。

### ■カリキュラム・ポリシー (CP)：教育課程編成の方針

建学の精神「**勇気・親和・愛・知性**」を基に、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力・技能等を身に付けさせるために、以下のような教育内容と教育方法に基づき、教育に対する基礎、教育に関する専門、共生社会における教養および自ら探究する学びを体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を実施する。

1. こどもや教育について考えるのに**不可欠な知識や原則**について学ぶ基礎的科目を配する。

#### <対応科目群>

教育原理、教職概論、学校運営と制度、障がいと教育、教育心理学、初等科課程編成論、ICTを活用した授業構築、肢体不自由児教育、こどもの理解と教育相談、こども家庭支援の心理学、保幼小連携論など

2. 教育や保育に関する専門的な理論と実践について学ぶ専門的科目を配する。

#### <対応科目群>

5 領域・各教科概論・指導法、ポディパーカッション教育Ⅰ・Ⅱ、地域と学校、現代教員論、こどもの食と栄養、乳児保育Ⅰ・Ⅱ、障害児保育Ⅰ・Ⅱ、こどもの保健、こども家庭支援論など

3. **社会規範や人間の行動原理・多様性について学ぶ科目を配すると同時に、学修内容を応用する実習科目を配する。**

#### <対応科目群>

日本国憲法、人権教育概論、Society5.0の世界、消費者行動論、農園演習、国際理解、学級経営論Ⅰ・Ⅱ、生活の中のジェンダー、幼稚園・小学校・特別支援学校・保育所・施設等における実習など

4. 本学部(学科)での学びの集大成として、自らテーマを設定し卒業論文に取組み発表するための科目群を配する。

#### <対応科目群>

キャリア研究Ⅰ・Ⅱ、プレゼミナール、ゼミナールⅠ・Ⅱ、卒業研究Ⅰ・Ⅱ

### ■アドミッション・ポリシー (AP)：入学者受け入れの方針

本学部(学科)では、小学校教諭、特別支援学校教諭、幼稚園教諭、保育士等、多様な教育分野における専門的知識と技術を持った教育者を養成するために、以下に掲げる人材を求める。

1. 建学の精神(勇気・親和・愛・知性を基盤とした人格教育)に賛同する人。

2. 高等学校までに学習した全ての教科において、基礎学力を身につけている人。

3. 教育者になろうとする強い意志を持ち、積極的に学び、思考力・判断力・表現力を身につけようとする人(主体的意志力・思考力・判断力・表現力)。

4. 豊かな感性・受容力・コミュニケーション能力を養い、地域を取り巻く教育に関心を持ち、こどもの健やかな成長を支援しようとする人(協調性)。

(是正事項) こども教育学部こども教育学科

#### 4. 【教育研究実施組織】

「審査意見への対応を記載した書類(6月)(資料)」P.3～9において示された7つの履修モデルには、本学の採用するCAP制の制限を緩和する必要があるモデル(「履修モデル⑦」等)が含まれており、必ずしも希望する学生全員が当該履修モデルのとおり履修できるとは限らない。このことについて、入学直後のオリエンテーション等における説明だけでなく、「GPAを基準にしながら日常の履修状況や本人との面談結果を踏まえて総合的に判断する」ことを説明しているが、示された履修モデルにおいては、こうした要件が記載されていないことから、学生が希望すれば誰でも履修が可能であると誤認する恐れがあるため、該当する履修モデルにおいて適切に明示すること。(改善事項)

(対応)

6月対応案指摘対応案として履修モデル①～⑦を提出した。モデル④～⑦では同時に3つ以上の免許・資格取得を目指すものとなり、所要単位数が150を超える。このため、6月対応案に記載した以下内容を履修モデル④～⑦に記載する。

・追加文案

「本履修モデルに基づき免許・資格取得を希望する場合、成績・履修状況、志望動機などを確認の上、学科会議、教職課程委員会、教授会等の承認を得る必要がある。」

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (22 頁、資料 3-1 履修モデル④～⑦)

新	旧
<u>履修モデル④～⑦表末 本履修モデルに基づき免許・資格取得を希望する場合、成績・履修状況、志望動機などを確認の上、学科会議、教職課程委員会、教授会等の承認を得る必要がある。</u>	(一)

・履修モデル④

【履修モデル④】幼稚園教諭一種免許状+小学校教諭一種免許状+特別支援学校一種免許状

区分	1年	2年	3年	4年	
基礎教養科目	キャリア研究Ⅰ	建学の精神と健康生活			
	キャリア研究Ⅱ	農園演習			
	人権教育概論	国際理解（海外研修）			
	日本国憲法	バイオサイエンス			
	消費者行動論				
	英語Ⅰ				
	英語Ⅱ				
	コンピュータリテラシーⅠ				
	コンピュータリテラシーⅡ				
	AI・データサイエンス入門				
	デジタルメディアリテラシー				
	健康スポーツ科学Ⅰ				
	健康スポーツ科学Ⅱ				
	17単位	7単位			
専門教育科目	教職に関する科目（教科・指導法）	人間関係	健康	生活科教育概論	こどもの表現（総合劇演習）
		環境	表現	健康の指導法	こどもの食と栄養Ⅰ
		言葉	国語科教育論	表現の指導法	こどもの食と栄養Ⅱ
		領域のねらい	算数科教育論	生活科指導法	知的障害児の心理・生理・病理
		社会科教育論	理科教育論	家庭科指導法	肢体不自由児の心理・生理・病理
		音楽教育理論	家庭科教育論	知的障害児教育	病弱児の心理・生理・病理
		造形の理論	体育	知的障害児指導法	視覚障害児教育総論
		音楽教育基礎（ピアノ）Ⅰ	英語科教育概論	肢体不自由児教育	聴覚障害児教育総論
		こどもの造形Ⅰ	環境の指導法	肢体不自由児指導法	
			人間関係の指導法	病弱児教育	
			言葉の指導法	発達障害児教育総論	
			領域の指導法		
			国語科指導法		
			社会科指導法		
			算数科指導法		
			理科指導法		
		体育科教育実践Ⅰ			
		英語科指導法			
		16単位	26単位	18単位	13単位
	教職科目（基礎）	教育原理	障がいと教育	ICTを活用した授業構築	総合的な学習の時間
		教職概論	初等科課程編成論	幼稚園教育実習Ⅰ	特別活動指導論
		学校運営と制度	幼児の理解と教育相談	幼稚園教育実習Ⅱ	特別支援学校教育実習
		教育心理学	こどもの理解と教育相談	幼稚園教育実習事前・事後指導	特別支援学校教育実習事前・事後指導
		特別支援教育概論	道徳教育の理論と方法	小学校教育実習	保育・教育実践演習（保幼小）
		教育課程・保育計画	教育方法論	小学校教育実習事前・事後指導	保幼小連携論
			児童・生徒の生活と進路指導	生活の中のジェンダー	地域と学校
					現代教員論
				教育社会学	
		12単位	14単位	14単位	17単位
ゼミナール		プレゼミナール	ゼミナールⅠ	卒業研究Ⅰ	
			ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅱ	
単位数計	45単位	46単位	34単位	34単位	

総取得単位数：161単位

本履修モデルに基づき免許・資格取得を希望する場合、成績・履修状況、志望動機などを確認の上、学科会議、教職課程委員会、教授会等の承認を得る必要がある。

・履修モデル⑤

【履修モデル⑤】 小学校教諭一種免許状+特別支援学校一種免許状+保育士資格

区分	1年	2年	3年	4年	
基礎 教養 科目	キャリア研究Ⅰ	建学の精神と健康生活			
	キャリア研究Ⅱ	農園演習			
	人権教育概論	国際理解（海外研修）			
	日本国憲法	バイオサイエンス			
	消費者行動論				
	英語Ⅰ				
	英語Ⅱ				
	コンピュータリテラシーⅠ				
	コンピュータリテラシーⅡ				
	AI・データサイエンス入門				
	デジタルメディアリテラシー				
	健康スポーツ科学Ⅰ				
健康スポーツ科学Ⅱ					
	17単位	7単位			
教職に 関する 科目 (教科・ 指導法)	人間関係	健康	生活科教育概論	音楽教育応用（様々な楽器）	
	環境	表現	生活科指導法	こどもの食と栄養Ⅰ	
	言葉	国語科教育論	音楽教育基礎（ピアノ）Ⅳ	こどもの食と栄養Ⅱ	
	領域のねらい	算数科教育論	音楽教育応用（わらべうた）	知的障害児の心理・生理・病理	
	社会科教育論	理科教育論	家庭科指導法	肢体不自由児の心理・生理・病理	
	音楽教育理論	家庭科教育論	体育科教育実践法Ⅱ	病弱児の心理・生理・病理	
	造形の理論	体育	知的障害児教育	視覚障害児教育総論	
	音楽教育基礎（ピアノ）Ⅰ	英語科教育概論	知的障害児指導法	聴覚障害児教育総論	
	こどもの造形Ⅰ	領域の指導法	肢体不自由児教育		
		国語科指導法	肢体不自由児指導法		
		社会科指導法	病弱児教育		
		算数科指導法	発達障害児教育総論		
		理科指導法			
		音楽教育基礎（ピアノ）Ⅱ			
		音楽教育基礎（ピアノ）Ⅲ			
		こどもの造形Ⅱ			
		体育科教育実践法Ⅰ			
		英語科指導法			
		16単位	26単位	19単位	13単位
	教職 科目 (基礎)	教育原理	障がいと教育	ICTを活用した授業構築	総合的な学習の時間
教職概論		初等科課程編成論	小学校教育実習	特別活動指導論	
学校運営と制度		こどもの理解と教育相談	小学校教育実習事前・事後指導	特別支援学校教育実習	
教育心理学		道徳教育の理論と方法		特別支援学校教育実習事前・事後指導	
特別支援教育概論		教育方法論		保育・教育実践演習（保幼小）	
教育課程・保育計画		児童・生徒の生活と進路指導		保幼小連携論	
	12単位	12単位	7単位	11単位	
保育 士 科目	保育原理	こども家庭福祉演習Ⅰ	こども家庭支援の心理学	こども家庭支援論	
	こども家庭福祉	こども家庭福祉演習Ⅱ	乳児保育Ⅱ	こどもの保健	
	社会福祉	社会的養護Ⅰ	こどもの健康と安全	発達心理学	
	障害児保育Ⅰ	乳児保育Ⅰ	社会的養護Ⅱ	保育指導論	
		障害児保育Ⅱ	子育て支援	保育実習Ⅱ（保育所）	
			保育実習ⅠA（保育所）	保育実習指導Ⅱ（保育所）	
			保育実習ⅠB（施設）		
		保育実習指導Ⅰ			
	7単位	7単位	12単位	11単位	
ゼミ ナール		ブレゼミナール	ゼミナールⅠ	卒業研究Ⅰ	
			ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅱ	
単位数計	52単位	53単位	40単位	39単位	

総取得単位数：184単位

本履修モデルに基づき免許・資格取得を希望する場合、成績・履修状況、志望動機などを確認の上、学科会議、教職課程委員会、教授会等の承認を得る必要がある。

・履修モデル⑥

【履修モデル⑥】幼稚園教諭一種免許状+小学校教諭一種免許状+保育士資格

区分	1年	2年	3年	4年
基礎 教養 科目	キャリア研究Ⅰ	建学の精神と健康生活		
	キャリア研究Ⅱ	農園演習		
	人権教育概論	society5.0の世界		
	日本国憲法	国際理解（海外研修）		
	消費者行動論			
	英語Ⅰ			
	英語Ⅱ			
	コンピュータリテラシーⅠ			
	コンピュータリテラシーⅡ			
	AI・データサイエンス入門			
	デジタルメディアリテラシー			
	健康スポーツ科学Ⅰ			
	健康スポーツ科学Ⅱ			
	17単位	7単位		
教職 科目 (領域・ 指導法)	人間関係	健康	生活科教育概論	こどもの表現（総合劇演習）
	環境	表現	健康の指導法	音楽教育応用（様々な楽器）
	言葉	国語科教育論	表現の指導法	こどもの食と栄養Ⅰ
	領域のねらい	算数科教育論	生活科指導法	こどもの食と栄養Ⅱ
	社会科教育論	理科教育論	音楽教育基礎（ピアノ）Ⅳ	
	音楽教育理論	家庭科教育論	音楽教育応用（わらべうた）	
	造形の理論	体育	家庭科指導法	
	音楽教育基礎（ピアノ）Ⅰ	英語科教育概論	体育科教育実践法Ⅱ	
	こどもの造形Ⅰ	環境の指導法		
		人間関係の指導法		
		言葉の指導法		
		領域の指導法		
		国語科指導法		
		社会科指導法		
		算数科指導法		
		理科指導法		
		音楽教育基礎（ピアノ）Ⅱ		
		音楽教育基礎（ピアノ）Ⅲ		
		こどもの造形Ⅱ		
		体育科教育実践法Ⅰ		
	英語科指導法			
	16単位	29単位	9単位	4単位
教職 科目 (基礎)	教育原理	障がいと教育	ICTを活用した授業構築	総合的な学習の時間
	教職概論	初等科課程編成論	幼稚園教育実習Ⅰ	特別活動指導論
	学校運営と制度	幼児の理解と教育相談	幼稚園教育実習Ⅱ	保育・教育実践演習（保幼小）
	教育心理学	こどもの理解と教育相談	幼稚園教育実習事前・事後指導	保幼小連携論
	特別支援教育概論	道德教育の理論と方法	小学校教育実習	
	教育課程・保育計画	教育方法論	小学校教育実習事前・事後指導	
		児童・生徒の生活と進路指導		
		12単位	14単位	12単位
保育 士 科目	保育原理	こども家庭福祉演習Ⅰ	こども家庭支援の心理学	こども家庭支援論
	こども家庭福祉	こども家庭福祉演習Ⅱ	乳児保育Ⅱ	こどもの保健
	社会福祉	社会的養護Ⅰ	こどもの健康と安全	発達心理学
	障害児保育Ⅰ	乳児保育Ⅰ	社会的養護Ⅱ	保育指導論
		障害児保育Ⅱ	子育て支援	保育実習Ⅱ（保育所）
			保育実習ⅠA（保育所）	保育実習指導Ⅱ（保育所）
			保育実習ⅠB（施設）	
			保育実習指導Ⅰ	
	7単位	7単位	12単位	11単位
ゼミ ナール		プレゼミナール	ゼミナールⅠ	卒業研究Ⅰ
			ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅱ
単位数計	52単位	58単位	35単位	27単位

総取得単位数:172単位

本履修モデルに基づき免許・資格取得を希望する場合、成績・履修状況、志望動機などを確認の上、学科会議、教職課程委員会、教授会等の承認を得る必要がある。

・履修モデル⑦

【履修モデル⑦】幼稚園教諭一種免許状+小学校教諭一種免許状+特別支援学校一種免許状+保育士資格

区分	1年	2年	3年	4年
基礎教養科目	キャリア研究Ⅰ	建学の精神と健康生活		
	キャリア研究Ⅱ	農園演習		
	人権教育概論	society5.0の世界		
	日本国憲法	国際理解（海外研修）		
	消費者行動論			
	英語Ⅰ			
	英語Ⅱ			
	コンピュータリテラシーⅠ			
	コンピュータリテラシーⅡ			
	AI・データサイエンス入門			
	デジタルメディアリテラシー			
	健康スポーツ科学Ⅰ			
	健康スポーツ科学Ⅱ			
	17単位	7単位		
教職科目（領域・指導法）	人間関係	健康	生活科教育概論	こどもの表現（総合劇演習）
	環境	表現	健康の指導法	音楽教育応用（様々な楽器）
	言葉	国語科教育論	表現の指導法	こどもの食と栄養Ⅰ
	領域のねらい	算数科教育論	生活科指導法	こどもの食と栄養Ⅱ
	社会科教育論	理科教育論	音楽教育基礎（ピアノ）Ⅳ	知的障害児の心理・生理・病理
	音楽教育理論	家庭科教育論	音楽教育応用（わらべうた）	肢体不自由児の心理・生理・病理
	造形の理論	体育	家庭科指導法	病弱児の心理・生理・病理
	音楽教育基礎（ピアノ）Ⅰ	英語科教育概論	体育科教育実践法Ⅱ	視覚障害児教育総論
	こどもの造形Ⅰ	環境の指導法	知的障害児教育	聴覚障害児教育総論
		人間関係の指導法	知的障害児指導法	
		言葉の指導法	肢体不自由児教育	
		領域の指導法	肢体不自由児指導法	
		国語科指導法	病弱児教育	
		社会科指導法	発達障害児教育総論	
		算数科指導法		
		理科指導法		
		音楽教育基礎（ピアノ）Ⅱ		
		音楽教育基礎（ピアノ）Ⅲ		
		こどもの造形Ⅱ		
		体育科教育実践法Ⅰ		
	英語科指導法			
	16単位	29単位	21単位	14単位
教職科目（基礎）	教育原理	障がいと教育	ICTを活用した授業構築	総合的な学習の時間
	教職概論	初等科課程編成論	幼稚園教育実習Ⅰ	特別活動指導論
	学校運営と制度	幼児の理解と教育相談	幼稚園教育実習Ⅱ	特別支援学校教育実習
	教育心理学	こどもの理解と教育相談	幼稚園教育実習事前・事後指導	特別支援学校教育実習事前・事後指導
	特別支援教育概論	道德教育の理論と方法	小学校教育実習	保育・教育実践演習（保幼小）
	教育課程・保育計画	教育方法論	小学校教育実習事前・事後指導	保幼小連携論
		児童・生徒の生活と進路指導		
		12単位	14単位	12単位
保育士科目	保育原理	こども家庭福祉演習Ⅰ	こども家庭支援の心理学	こども家庭支援論
	こども家庭福祉	こども家庭福祉演習Ⅱ	乳児保育Ⅱ	こどもの保健
	社会福祉	社会的養護Ⅰ	こどもの健康と安全	発達心理学
	障害児保育Ⅰ	乳児保育Ⅰ	社会的養護Ⅱ	保育指導論
		障害児保育Ⅱ	子育て支援	保育実習Ⅱ（保育所）
			保育実習ⅠA（保育所）	保育実習指導Ⅱ（保育所）
			保育実習ⅠB（施設）	
			保育実習指導Ⅰ	
	7単位	7単位	12単位	11単位
ゼミナール		プレゼミナール	ゼミナールⅠ	卒業研究Ⅰ
			ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅱ
単位数計	52単位	58単位	47単位	40単位

総取得単位数：197単位

本履修モデルに基づき免許・資格取得を希望する場合、成績・履修状況、志望動機などを確認の上、学科会議、教職課程委員会、教授会等の承認を得る必要がある。

(是正事項) こども教育学部こども教育学科

5. 【教育研究実施組織】

【第一次専門審査意見5への回答について】

教員資格審査において、「不可」や「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を基幹教員以外の教員で補充する場合には、主要授業科目は原則として基幹教員が担当することとなっていることを踏まえ、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。

(対応)

第二次是正意見・教員資格審査において指摘があった以下五科目に関しては、ご指摘の通り、主要授業科目や卒業必修科目である科目に関しては基幹教員が担当する。また、これらの科目は教職課程審査における教職専任教員の配置が求められる。このため、業績不足が指摘された科目に関しては、新たに基幹教員を充てることとし、以下の通り不足する業績を他の基幹教員の業績で補いたい。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (該当なし: 教員名簿参照)

新	旧
①教育原理：主要授業科目・卒業必修 (対象教員：調書番号△5・△10・△1 記号に関しては以下同じ) △5・△1 両基幹教員とのオムニバス科目とすることで関連する業績を補う。これに伴いシラバスを変更。	①教育原理：主要授業科目・卒業必修 (対象教員：調書番号△1 記号に関しては以下同じ) 関連する業績の不足
②学校運営と制度：主要授業科目・卒業必修 (対象教員：△4・△1) 基幹教員・△1 とのオムニバス科目とすることで関連する業績を補う。これに伴いシラバスを変更。	②学校運営と制度：主要授業科目・卒業必修 (対象教員：△4) 関連する業績の不足
③こどもと学校の歴史：主要授業科目 (対象教員：△1) 科目名称・内容を変更した上で別の基幹教員が担当。 新授業科目名「現代教員論」	③こどもと学校の歴史：主要授業科目 (対象教員：△6) 関連する業績の不足
④肢体不自由児の心理・生理・病理：非主要授業科目 (対象教員：△5) 主要授業科目ではないことから現在別の大学において本科目を担当している兼担教員に変更。現職の教科	④肢体不自由児の心理・生理・病理：非主要授業科目 (対象教員：△5) 関連する業績の不足

<p>担当者を充てることで教育の質を担保する。</p> <p>⑤病弱児の心理・生理・病理：非主要授業科目 (対象教員：△5)</p> <p>主要授業科目ではないことから現在別の大学において本科目を担当している兼任教員に変更。現職の教科担当者を充てることで教育の質を担保する。</p>	<p>⑤病弱児の心理・生理・病理：非主要授業科目 (対象教員：△5)</p> <p>関連する業績の不足</p>
---	---